Stage 1
生涯学習の原理

●学習の目標

生涯学習の方法を身につけ，実際に役立てていくためには，その前に，生涯学習の基本的な原理を理解しておく必要がある。本ステージでは，この原理と応用のあり方について学ぶ。

1. 生涯学習における「個人性の原理」の意味と意義を考えよう。

2. 個人の学習活動はどのような段階を踏んで発展するか。そして，それぞれの段階において必要な援助は何かを考えよう。

3. 生涯学習の方法にはどのようなものがあるかを考えよう。

1 生涯学習における「個人性の原理」

A子：今日は，生涯学習の原理について考えるということでしたわね。何だか，難しそう……。

B男：いやあ，ぼくも難しそうな感じがしていたところなんです。ぼくなんかは,好き勝手に学習を楽しんでいただけなんですが,「原理」だなんて言われると，ちょっとね。

F講師：はいはい，お二人のご心配はもっともなことです。私としても，みなさんに気やすく「生涯学習の原理」だなんておっしゃって欲しくない気持のほうが，むしろ強いんですよ。

A子：ええっ。

B男：あれまあ。

F講師：なぜなら，生涯学習は個人の自発的意思によるものですからね。外側から,「こうあるべきだ」なんていう「原理」を押しつけるべきではないと思います。

B男：それじゃあ，何で。

F講師：はい，ここで考えようとしていることは，生涯学習の方法を考えるにあたっての原理なんです。しかも，もっぱら学習する個人がどうすべきかの原理ではなく，みなさん方のような生涯学習のボランティアや援助者がおさえておくべき基本としての原理を学ぼうということです。つまり,「生涯学習の原理」をよく認識しておきませんと，生涯学習を適切に援助することは難しいのではないかと思うのです。そこで,「生涯学習の原理」を考えながら，生涯学習の「援助方法」を検討してはどうかと思うのです。

B男：ふーむ，わかったような，わからないような。

F講師：つまり，生涯学習とひと口に言っても，その方法はいっぱいある。人びとはその様々な選択肢の中から，好きな方法を選んで学習を進めるのです。

B男：なるほど。そうしますと，学習者に対して「あなたには，この学習方法が望ましい」などということは，私達，軽々しく口にはできないということになりますな。個人の適性なんて，そう簡単にわかりませんから。

F講師：そう，それは大切なことです。学習の方法にしたって，本人のトライ・アンド・エラーによってこそ，自分にとっての最適の学習方法が見つかるものです。だからといって，学習の援助者が生涯

適性　個人の知識・技術・能力・性格などが，ある活動をするために備わっていること，また，将来習得し得る可能性のこと。適性は学習によっても変わることがあるので，固定的なものとしてとらえることは誤りである。

トライ・アンド・エラー［trial and error］試行錯誤。様々な試みと誤りを重ねながら，次第に最適なこたえを見い出していくこと。

学習の方法に関してよく知らないということでは済まされないのです。

A子：それは，そうですわね。

F講師：今，学習の援助者は，様々な学習方法をつかんでおいて，それらを有機的に結びつけて学習機会を構成する努力が必要だというわけです。そのときの基本的な考えにあたるものが，ここで学ぼうとしている「生涯学習の原理」なんです。

B男：そこまでは，わかりました。でも，いくら，ある「原理」を打ち立てたところで，生涯学習が個人の自発的意思で，自由に行われるものだとすると，その「原理」は無力なもの，ということにならないですかね。

F講師：はい，実はBさんのおっしゃったことが，今回学ぼうとする「生涯学習の原理」そのものなんです。

B男：ええっ。というと……。

F講師：生涯学習の動機は，それぞれの個人の内面に存在し，そこから出発します。それを無視して，学習者の外側からの何らかの学習を押しつけようとすることは，無駄なことですし，よくないことでもあります。これを「生涯学習の個人性の原理」と呼びたいと思います。

A子：とすると，「生涯学習の個人性の原理」の立場に立った生涯学習の方法とは，どんなものになるのでしょうか。

F講師：正確にいうと，生涯学習の援助の基本原理ということになりますが，常に学習者自身の動機に基づきながら，その人の学習を援助するという姿勢で行われるものであるべきだ，ということです。そして，学習そのものも，学習者本人が達成感を味わえるものでなければなりません。集団での学習であっても，一人ひとりの個人が学習成果を得られる方法を考える必要があるのです。

B男：そうですね。そうなれば素晴らしいと思います。

F講師：それでは，今の問題意識を念頭におきながら，「生涯学習の原理」を探ることにしましょう。次のところを読んでみてください。

自発的意思　生涯学習は，強制によらずみずからの内面的欲求によって開始される。このような生涯学習を開始する際の感性的，理性的な意思が自発的意思である。

動機　ある事柄を行おうとする意欲のことを動機という。その動機の基礎は，生理的欲求，社会的欲求，心身の成熟や発達，それまでの学習経験などの状態である。

達成感　目的をなしとげたことによって生じる充実感。

「個人性の原理」とは何か

人はなぜ学習するのか。それは，何らかの新しい知識，技能，態度を獲得しようとするからである。それではなぜ，そのようにして新しい知識，技能，態度を獲得しようとするのか。それは，このような知識，技能，態度の獲得によって，

a. 精神的な充実
b. 身体的な健康
c. 職業的な成功

などを得ようとする要求を満足させるためである，と考えられる。

そのことから，学習はあくまでも「その人自身」がよりよき知識，技能，態度を獲得するためのものであり，その目的も直接的には「その人自身のため」ということであり，すなわち，学習とは個人が行うもの，ということができる。

1 集団学習と個人性

さて，学習とは個人が行うものであるとすると，集団学習は学習ではないのか。そうではない。集団の中で，多かれ少なかれ相互作用を及ぼし合いながら，実は「個人」がそこで学習している。逆にいえば，個人一人ひとりが，学習しているという認識や喜びを感じることのできない「集団学習」などというものがあるとすれば，それは学習の名に値しないのである。一番大切なことは，メンバー一人ひとりが，それぞれどのような学習成果を獲得したかということであり，それをとおして一人ひとりが主体性をどれほど育てたかなのである。

集団　ある一定の共同目的に基づき，相互作用を行っている複数の人びとの集まり。メンバーはその成員として，多少なりとも帰属意識をもつのが普通である。

相互作用　お互いに関係をし合い，影響をおよぼし合うこと。

2 学習への動機づけ

この「学習は個人がする」という原理は，成人においても，子どもにおいてもまったく同じである。しかし，学習行動を起こす動機づけについていえば，成人の行う生涯学習は，学校教育とは大きく異なっている。

子どもに対する学校教育の場合は，子どもの外側からその内なる「動機」までをも掘り起こし，育てることが必要になる。そのために，条件設定や計画的・持続的な指導が教師側に要求される。この子どもは算数が嫌いなようだから，何も無理して分数を教えなくてもいい，ということにはなら

動機づけ　特定の事柄に対する意欲を高める原因を動機といい，それを与えること。

ない。教師側が「無理をしてでも」，分数が面白くなるように指導し，「人間の英知の結晶の一つである分数を教える」という「教育目的」を遂行する。

ところが，それと同じ調子で成人に対し，「この人達には，○○の学習がまったく欠けている。よし，私が，その勉強会を開いてやろう」などと意気込んでみたところで，もし相手自身にそのことについての学習動機が存在していなければ，せっかく会を開いても顔も見せないだろう。相手には，したくない学習までする義務も義理もない。学習動機の掘り起こしなども実現できるとは考えにくい。

生涯学習は，いま述べたように人びとの自発的・自主的な動機づけに基づく学習を基礎としているので，個人一人ひとりの自由な意思にそって，実に多種多様な動機による，様々な学習に分散することになる。実際，学習実態の調査結果でも，学習動機として，全体の1パーセントに満たない学習項目がみられ，しかもその数がどんどん増える傾向にあることが指摘されている。

しかし，この「多様化」について「とても対応しきれない。やっかいなことだ。」と援助者が思うのは適切ではない。学習の「多様化」は，社会の画一化を食い止め，社会を様々な側面から活性化し，発展させるための要素であるからだ。

ただ，「多様化」の中で，何から何まですべての学習に対応しようとして，結局は「多様化現象」に振り回されるだけで終わってしまったということにならないよう気をつけなければならない。そのためには，個人の学習の多様化に対応できる確かな方法論を見つけることが新たに必要になる。

学習実態の調査　人々がどのような学習をどのような方法で行っているかなど学習の実際を，具体的に明らかにする調査。

学習の多様化　様々な人が一人ひとり違った内容の学習に関心をもち，様々な内容や方法で学習するようになること。

画一化　全てを一様に同じ状態とすること。

Check II-1

1 次の文の（　）の中にあてはまる言葉を下記の語群の中から選び，記号で答えなさい。

1　人はなぜ学習するのか。人は（①　）的な充実や（②　）的な健康や（③　）的な成功などを得ようとして学習すると考えられる。このような学習目的は学習者によって異なるが，いずれにせよ，学習はその学習者自身のために行われるものなのである。これを（④　）性の原理という。

a. 職業　　b. 個人
c. 精神　　d. 身体
e. 組織　　f. 利己

2　集団の中で，（①　）を及ぼし合いながら，学習するのであるが，学習するのはあくまでも（②　）である。一人ひとりが学習しているという認識や（③　）を感じるためには，リーダーはメンバーがどのような（④　）を獲得したか，また一人ひとりの（⑤　）をどれだけ育てることができるか，に注意をはらう必要がある。

a.喜び　　b.学習成果
c.個人　　d.主体性
e.相互作用

2 次の文の中から，学習援助者が成人に対して強引に学習を押しつけてはいけない理由を選び，番号で答えなさい。

1　すべての成人は，すでに学校教育を受けているから。
2　成人の学習の場合には，学習者の主体性を尊重しなければならないから。
3　すべての成人は，学習者だから。

A子：簡単に言えば，「個人性の原理」というのは，学習の目的は人それぞれで違うとしても，学習はその人自身のために行うものなのだ，ということですね。

B男：まさにそのとおりだと思いますね。人のためでも，国のためでもなく，学習者個人のためにするのだということですよ。学習を援助する際には，このことを忘れてはいけないということですなあ。

A子：蛇足かもしれませんが，私は母親として，子どもに「勉強するのはだれのためでもないのよ。あなた自身のためなのよ」と言うことがありますが，同じことですわね。

B男：ほう。Aさんは「教育ママ」ですか。

A子：いいえ。全然そうじゃありませんの。高校に進むのも，大学に進むのも本人しだいですわ。でも常に自分を鍛え，自分を高めていく勉強……というより学習を，みずから行える人間になってほしいと思っていますわ。ですから，そのように言いますの。

B男：Aさんが，お子さんにおっしゃられたことは，利己主義や出世至上主義などの打算的な意味合いのものではないということですね。それでしたらAさんの言われるとおりですな。

F講師：そうですね。Aさんのお考えと，いわゆる「教育ママ」の違いをよく考える必要がありますね。本当の「精神的充実」，「身体の健康」，「職業的な成功」は，利己主義的な考え方ややり方では得られないと思いますね。ですから，ここでいう「個人性の原理」の本当の意味をよく理解していただきたいと思うのです。

A子：また，学習者を援助する際には，学習方法・形態がいかなる場合であっても，学習者一人ひとりの要求が満たされているかどうか，学習者一人ひとりの学習成果があがっているかどうかを，考えて援助することが必要になるということですね。

B男：なるほど。ぼくのまわりの世話人達が「私の所は月に一度は勉強会をしている」とか，「いや，私の所は毎週だ」などと自慢し合っていますが，まったくナンセンスな形式主義ですなあ。

形式主義　かたちだけ整え，内容よりも形式面を重視すること。

A子：そうですわね。それに，子どもの場合も，大人の場合も「学習は個人がする」という原理は同じだということですわね。学校で教室が静まり返っていて，先生の話が教室中に響きわたっていても，それだけで子ども達の学習が立派に行われているかを判断できま

せんわ。

B男：そう。問題は中味ですからね。ところで，「学習は個人がする」という原理は同じでも，動機づけを行うことは子どもの場合と大人の場合では異なるということですな。子どもの場合，はっきりした動機を自覚できないので，大人が掘り起こし育てる必要がある。だが，成人の場合はそうはいかないということですなあ。

A子：大人の場合，例にあげられていましたように「この人達には，○○の学習がまったく欠けている。よし，私が，その勉強会を開いてやろう」などと他人が勉強会を開いても，失敗するというのは当然ですわ。

生涯学習の健全な姿　他者から押しつけられるのではなく，学習者自身の主体性に基づいて学習が行われること。

B男：皮肉な言い方をすれば，そのような失敗は，むしろ生涯学習の健全な姿を表しているんでしょう。大人の場合，学習の動機はその人の内面にあり，自分でそれに気づくことが前提ですよ。そこから学習が始まらなくちゃいかん，ということでしょう。

F講師：今，お二人のおっしゃられたこと，とても大事なことですので，よく考えていただきたいと思います。

Check11-1の答：[1]1①c，②d，③a，④b，2①e，②c，③a，④b，⑤d[2]2

2 学習活動の発展段階と援助方法

F講師：ここでは，どのような発展段階にある学習者に対して，どのような援助が必要なのかを考えてみましょう。
これまで学んだような「個人性の原理」から出発して生涯学習を考えますと，各人の内面にある学習動機を尊重しなければならないことになります。「初めに学習しようとしている人ありき，学習をしている人ありき」ということです。
このような観点に立って，高村久夫氏は，次のような3つの学習活動の発展段階を提起しています。それは「潜在的学習者から学習者への段階」→「計画的・継続的あるいは集中的に学習する段階」→「既得の知識・技術を補強する段階」です。

F講師：それでは，この3つの段階について考えてみたいと思います。

B男：「潜在的学習者」というのは，何らかの学習要求をもっているけれども，実際には学習していない人をいうんですか。

F講師：そうです。

A子：そのような人に，適切なきっかけを与えれば，学習する可能性があるということですね。

B男：そう。人が学習を始めるというのは，その人自身にすでにそれなりの学習動機が用意されているということですよ。そのような人に対してのみ，学習援助者は学習のきっかけを与えることができるのですね。

A子：学習を無理強いしても意味がないということですね。その人自身の心の状態を尊重しなければいけませんわね。そのことは「個人性の原理」のところで学習しましたもの。

学習活動の発展段階について知ろう

1 学習への移行段階――潜在的学習者から学習者への段階

私達のまわりには，人，物，出来事，情報などが常に取り巻いている。テレビなどのマスメディアもあれば，活字情報としての図書などもある。しかし，これらは学習者本人が何もしなければ，ただ「ある」だけで，学習に必然的に結びつくものではない。

これらから何か学び取ったり，これらをきっかけにして学習が始まると

マスメディア[mass media] 一人あるいは一か所の送り手から，情報を多数の人に伝達するような媒体。テレビ，ラジオ，新聞，雑誌など。

活字情報 印刷物を通して伝達される情報。書籍，新聞，雑誌など。

きには，実は本人のほうに，漠然とはしていても必ずそれなりの学習動機が用意されているはずなのである。本人に学習する心身的な条件が整っていることを「レディネスがある」というが，成人の学習の場合，特に何らかの理由で学習関心が存在していることを意味する。「レディネス」が非常に重要な要件であるし，また，それは，学習の開始に不可欠なのである。

このようなことから，成人が何らかの学習を始めようとする段階，つまり，学習者になる前の段階では，まったくそのことに関心がなかったととらえるのは適切ではなく，むしろ，そのことに対する学習要求が「潜在的に」存在していた，ととらえるべきであろう。実際に学習してはいないけれども，そのレディネスをもっている人，これを潜在的学習者と呼ぶことができる。

潜在的学習者は，身のまわりの図書，放送番組，実物，人などとの出会いをきっかけとして，潜在化していた学習要求を学習行動に結びつけるのである。そのときは，ただ単に，まわりが「ある」のではなく，「出会い」がある点に注目していただきたい。学習者の側に「出会う」だけの主体的条件があるのである。

このため，生涯学習の援助者は，学習要求がゼロの人を想定して，「何とかしてやろう」とするのではなく，潜在的な学習要求をもつ人がタイムリーに「学習のきっかけ」に出会えるよう，配慮をすることが大切である。

レディネス［readiness］ ある学習をするのに必要な心身の準備状態としての素地で，成熟や経験によって得られる。子どもの場合は，心身の成熟の度合いが重要な要素になるが，それに比べて成人の場合は，その学習への関心の度合いが重要である。

学習要求 学習をしたいといった学習に対する欲求・欲望。

タイムリー［timely］ 時機を得た。好機に。時機が適切なこと。

Check II-2

下の文の中で潜在的学習者を見いだす意義について誤っているものを選び，番号で答えなさい。

1 現在，学習をしていなくても，今後，学習する可能性のある人としてとらえ，援助できるから。
2 本人の内面にまったく学習動機や学習要求がなくても，学習させることができるから。
3 学習が始まるときの，本人の主体性を尊重することができるから。

2 学習の実践段階——計画的・継続的あるいは集中的に学習する段階

潜在的学習者が実際に学習を行うようになると，いわゆる学習者ということになる。学習者は，何を，どのような方法で学習するかを計画し，それに基づいて継続的に学習を行う。あるいは一定期間に集中的に学習する場合もある。このような段階が学習活動の第2段階である。

この段階では，学習者は何を学習したいのか，あるいは何を学習したらよいかを自覚し，目標を定めて学習活動を行う。学習目標を達成するために，読書，テレビ・ラジオ番組視聴，学級・講座などの受講，団体・サークル活動への参加，社会通信教育の受講，ならい事，カルチャーセンターなどの民間教育産業の利用などによって，学習活動を行うのである。

しかし，この段階に達しても，学習者は様々な学習の困難や学習中断の危機に常に直面している。したがって，生涯学習の援助者は，学習者の困難や危機に応じて，必要な援助策を講じていかねばならない。

学習中断の危機　様々な学習阻害要因により，生涯学習は常に中断の危機に直面しながら行われている。その要因には時間的，経済的理由などの他に，本人の意欲の減退も大きい。

3 学習の高度化・専門化の段階——既得の知識・技術を補強する段階

第2段階のような学習を行った後，興味・関心のある事柄などを継続的に学習する段階に入る。技術革新や社会の変化が急速に進む現代社会にあっては，今日得た知識・技術が明日には古くなってしまうことが多い。このため，すでに得た知識・技術であっても，それをさらに継続して学習し発展させていく努力が人びとに求められている。

技術革新　科学が進歩することにより，新しい技術が生まれ，その技術が商品や生産方法として実用化され，普及していく過程。

従来の学習援助，特に公的な機関や施設などの援助では，マス(集団)を対象として，もっぱら必要最低限の入門的なレベルの学習機会を提供する傾向がみられる。このため，この第3段階目の学習活動への援助はややもすると軽視されがちであった。しかし，上述したような社会の変化に対応する「生涯学習の時代」にあっては，生涯学習の援助者は，この第3段階目の学習活動に対する援助を行わねばならないであろう。このような援助を行う場合には，次のような点に留意する必要がある。

〈第3段階での学習援助の留意点〉

①多様に分化した個人一人ひとりの学習への援助を重視する。

②高度化，専門化した内容の学習への援助を行う。

③新鮮で今日的なテーマ・内容の情報を提供する。

④既定・定型の知識・技術を「教える」立場ではなく，共に学ぶ立場から援助する。

既定・定型の知識・技術　既に社会の中で広く受け入れられている知識や技術。

⑤個人の日常的・継続的学習に対して，援助も日常的かつ継続的に行う。

現代は境界線のない時代といわれる。研究者などの「知のプロ」と「アマチュア」との境界線が以前よりは崩れつつある。「アマチュア」の高度化，専門化した研究や生活者の視点からの実際的な研究の成果は，社会的にも注目され，実際に社会の発展に貢献するものになりつつある。つまり，生涯学習の成果が直接，社会還元される時代に向かっているのである。

社会還元　還元とは，もとに戻すこと。生涯学習を行っている個人は何らかのかたちで社会資源の恩恵を受けている。学習した成果を社会に生かすことを社会に還元するという。

生涯学習の援助者がこのような学習を援助しようとする場合，何かを「教える」姿勢ではとうてい対応しきれないだろう。まさに文字どおり，個々のケースに対して「援助する」姿勢が求められるのである。

Check II-3

次の文の中から，正しいものを選び，番号で答えなさい。

1　初歩的，入門的な学習を終えた人には，学習援助をする必要はない。
2　専門的な学習をしている人にも，学習援助者は「教える」立場で指導する。
3　専門的な学習をしている人にも，日常的，継続的な援助をする。

Check II - 2 の答：2

B男：学習が始まっても，学習者の援助は必要だということですな。

F講師：「学習者は各人各様の学習の困難や学習中断の危機に直面している」と書いてありましたけれど，どんな困難や危機があるのかを考えていただけませんか。

B男：そうですなあ。本など読んでいまして，専門的な言葉が出てきてよくわからない，ということがあります。それも1つや2つなら，前後の関係から理解できますが，数が多くなったり，鍵となるような重要な言葉ですと，ちんぷんかんぷんになりますよ。

A子：いま，Bさんがおっしゃられたような場合に，どのようにして調べたらよいか皆目見当がつかない，ということもあげられるのではないでしょうか。私自身にとって困ることは，わからないところが出たとき，どうしてよいかわからない，というものですわ。

B男：人間関係の難しさもありますね。ぼくのサークルでも，ときどき仲間とうまくいかなくてやめてしまう人がいますね。そのようなことがないよう配慮しているのですが，人，様々でして……。

A子：その点，F先生やBさんにこうしてお付き合いいただいているのはとても楽しくて，ありがたいですわ。

B男：ぼくもですよ。

A子：それから，よく学習を中断してしまう例としては，学級や講座で1回休んでしまうと，次回から参加するのがおっくうになってしまうこともありますわ。何か遅れをとって，ついていけなくなるような気がして……。

B男：また，何年も同じことを学習していますと，ついマンネリ化してしまうということもあるんじゃないでしょうか。

マンネリ[mannerism]
学習が型にはまってしまい，方法面や内容面で同じことの繰返しになり，新鮮味が失われてしまうこと。

F講師：Aさん，Bさんがあげられたように，学習をしていくといろいろな困難が生じてきます。ちょっとしたきっかけで学習するようになっても，ちょっとしたきっかけでまたやめてしまうことが多いということになります。

B男：そんなときに，指導者，つまり生涯学習の援助者が適切な指導・助言をしてくれるとやめないで済むということですな。

F講師：はい。AさんとBさんがあげられた学習の困難や危機に対して，具体的にどのようなアドバイスをしたらよいかをぜひ考えてみてください。

A子：ところで，第3段階目というのは初歩的な段階の学習をさらに発展させた段階ということですのね。

B男：ぼく達のサークルにも，公民館の講座を修了した後で入会する人がいますよ。公民館の講座の多くは入門的なもので終わってしまいますから，その後，続けて勉強を進めていく機会がなくなってしまうようです。そこで，ぼく達のサークルに参加するということです。

A子：でも，そうしますと長いこと学習していらっしゃる方の中には，セミプロみたいになっている人もいらっしゃるでしょうね。そのような方に学習援助などできるものでしょうか？　それも，学習ボランティアが援助し得ることなのでしょうか。

セミプロ[semiprofessional]　セミプロフェッショナルの略語。半玄人。

F講師：専門的な領域に入ってしまうとそれは無理だと思います。むしろ重要なことは，国なり都道府県なり市町村なりで，学習を援助できる仕組みをつくり，学習ボランティアの方はその仕組みがどうなっているか，どのようにその仕組みを活用したらよいかということを理解して助言することが大事でしょう。それと，学習者とともに考え，ともに学ぶという姿勢が大切ですね。

B男：学習援助の仕組みというのは，たとえばどのようなことですか。

データベース[database]　一連の情報（データ）を蓄積したもの。コンピューターにより多目的な分類，検索が可能。

F講師：第Ⅰ単元でも簡単に学びましたが，学習情報のデータベース（データバンク）をつくって，そこに入力されている情報を手軽に引き出したり活用したりすることのできる仕組みなどがそうです。また，様々な教育機関や施設の連携がとれていて，相互に協力し合う仕組みをつくったりすることです。

B男：なるほど。必ずしも学習ボランティアが専門的な知識・技術をもっていなくても，必要な情報を引き出してあげたり，「博物館へ行ったらいいですよ」とか「図書館へ行ったらいいですよ」とか「○○町にその道の専門家がいます」といったアドバイスができればよいということですな。

A子：それでしたら，私にもできそう。

F講師：それでは，これら3つ学習段階に対応した教育的援助はどのようなものになるか，その基本的性格について考えてみましょう。

Check Ⅱ-3の答：3

学習活動に対応する援助

1　「潜在的学習者から学習者への段階」での援助

①学習の機会，施設に関する情報提供

生涯学習の時代と呼ばれる今日，個人のレベルでは把握しきれないほどたくさんの学習機会が提供されている。社会教育行政だけでなく，一般行政や民間など広い範囲で提供されている。しかし，それらの情報が整備されないまま氾濫しているため，学習者はせっかくの豊富な学習機会から，自己の必要とする学習機会を的確，かつすみやかに選び出すことができなくなってしまっている。

一般行政　ここでは，教育行政以外の行政のこと。

個人を常に集団の単なる一員としてしかとらえない立場からは，その問題は見えにくい。なぜなら，すでに所属している集団が行っている，または行おうとしている学習機会にメンバーが参加しさえすればよいと考え，個人個人が求めている情報が何かを考えようとしないからである。

これに対して，学習の個人性を重視する立場からみると，これらの学習情報の不備は憂慮すべき問題である。したがって，特に学習者が学習をスタートする時点では，学習援助者がこの学習情報の不備をうめる役割を果たす必要が生じてくる。

学習情報　学ぶべき知識に関すること，学習方法や学習機会に関すること，指導者に関することなど，学習を促進するうえで効果的な情報のこと。

たとえば個人が様々な学習機会の情報を的確に把握することによって，主体的に自分に合った学習機会を選び出すことが可能になる。これに反して，そういう情報なしに学習機会を決定する場合は，それまでの自己の学習経験の枠内で判断するか，まわりや所属集団などの「流れ」に受動的に従うという結果にならざるを得ないのである。

画一的な学習機会を一方的に与えればよいとする立場から言えば，学習情報の提供はせいぜい，「周辺的」な行為にしかすぎない。それとは対照的に，個人性重視の立場からは，学習情報提供はむしろ様々な教育的援助の中でも中核的存在なのである。

②学習相談

学習相談とは，学習に関する悩みや困難を感じている学習者が，適切な助言を受けてそれらの問題を解決するために各種の教育関係の指導者（援助者）にその悩みや困難を相談することである。あるいは，そのような事業や仕組みを含めて学習相談ということもある。学習を始める前の学習相談の場合は，「何か学習してみたいが何をどうしたらよいかわからない」，

「○○を学習したいがどのようにしてよいかわからない」など，学習情報を求める相談が多いと考えられる。

カウンセリング[counseling] 社会生活のうえでの問題や悩み事を抱えた者に，専門的な助言等を行なう心理的な援助活動。

《学習相談とカウンセリング》

最近，カウンセリングに対する関心が強まっている。学習相談の場合も，一身上の問題に対して，相談，助言を通して，相談者の主体的な自己解決を援助するカウンセリングの思想からは学ぶべきところが多い。

ただし，カウンセリングでいう「相談」とは，あくまでも個人の心理的・精神的問題，つまり「こころの問題」の解決のためのものである。教育的援助をする側が，自分の行う通常の学習相談までをもカウンセリングと同一と考えるのは危険である。さらに，生涯学習の相談に来た人に対して，心の奥の深い所まで立ち入って，それを直接解決してやろうなどと考えるとしたら，問題は深刻である。(もちろん，ここでの論議は成人の生涯学習への援助に限定している。)

たとえば，新しく引っ越してきてまだ近所に溶け込めていない主婦が，あなたの所に「どこかで華道を習える所がないか」と尋ねて来たとする。そのとき，「この人は，前にいた所での人づきあいが途絶えたので，少し寂しいのかもしれない」と考える，思いやり，優しさが必要である。しかし，たとえば当人に「近所に溶け込めるように，あなたから話しかけてみたらどうですか」などとぶしつけに助言したのでは，その主婦から敬遠されてしまう。そもそも，カウンセリングでは，そのような忠告，説得は行わないのが普通である。学習相談において安易に忠告を行うことの危険性はここにある。

それよりも，その主婦の“孤独”を心配する思いやりはもちながら，希望どおりに，華道を習える所についての情報サービスを行うほうが適切といえる。さらには，押しつけにならない程度に，華道以外にもいい仲間になれそうな人のそろっているサークルなどを紹介する必要もあるかもしれない。なぜなら，その主婦が本当に欲している情報は，“華道を習える場”と同等に，あるいはそれ以上に“よい仲間”であるかもしれないからである。しかし，せいぜいこの程度までであろう。後は，学習者がそれぞれ自己の力で学習機会を選択し，自己の力で自己の問題を解決するよう期待することとなる。

そもそも，学習相談においては，たとえ本人が「相談に来ました」と言ったとしても，それはカウンセリングのような“心の問題”ではなく，先

に述べたように学習情報の提供を求めにやって来るのが普通である。学習における“心の問題”とは，たとえば「自分にとって，そもそも何を学習すればよいのかわからない」とか，「学習したいことはあるのだが，なぜか手につかない」などの悩みがそれに近い。

しかし情報提供側は，一方的に限られた情報を押しつけるのではなく，相談者がみずから主体的に判断し，選択できるようヒントになる情報を広く提供することに，できるだけの努力を払う必要がある。

そのためには，カウンセリングにおける「受容」，「繰り返し」，「明確化」，「支持」，「質問」などと同様のはたらきかけにより，学習者を励まし，求めている学習は何かを明確化し，自覚化をうながし，ひいては主体性の発揮を援助することが必要である。その意味から，学習相談そのものはカウンセリングとは区別はしても，「カウンセリングマインド」ともいうべきカウンセリングの基本的態度とは一致するのである。

学習相談が個人の学習情報の求めに対応するという意味で，かたちの上からも「個人性の原理」を尊重するものであるということは自明のことである。しかし，それ以上に，「応答」の内容も「個人性」を尊重し，さらにはこの「個人性」が一層発展するよう援助するものでなければならない。

受容　カウンセリングの技法の一つ。相談者のいかなる考え，感情，行為をも否定したり直したりしないで，話を聞きそれを受け入れる態度のこと。

カウンセリングマインド [counseling mind]　カウンセリングの過程でカウンセラーに求められる精神。相談者の気持ちを理解する努力をすることなどがあげられる。

Check II-4

次の学習相談の具体例のうち「生涯学習の個人性の原理」を尊重した対応の仕方を選び，番号で答えなさい。

「どこかで華道を習いたいのですが」という相談内容に対して，

1 「○○先生がいますからそこへ行きなさい」とアドバイスする。
2 「○○先生，△△公民館の教室，××カルチャーセンターの講座，○×高等学校開放講座……などがあります」と地域で行われているあらゆる学習機会を提示する。
3 「華道の学習よりも，仲間づくりのほうが合っているので，○△グループに参加したほうがよい」と説得する。

A子：潜在的学習者の学習相談には，何を，またどこで学習したらよいか，などの学習情報を求める場合が多いということですね。

B男：しかし……，そうしますと学習情報の提供と学習相談とはどのように違うのでしょうか。

F講師：確かに区別できないものもあります。たとえば，今，Aさんがおっしゃられたような，学習相談で学習情報を提供する場合などがそうです。しかし，学習相談では学習情報を提供するばかりではありません。学習者に，学習グループの人間関係についての悩み事や，学習プログラムのつくり方を指導したりすることもあります。潜在的学習者で何を学習したらよいかわからない人には学習欲求の診断をすることもあるかもしれません。

また，学習情報の提供といいましても，学習相談の中で行うとは限りません。ポスター，チラシ，パンフレット，ガイドブック，放送など様々な方法で行われています。したがって，学習情報提供の1つに学習相談での情報提供があり，また，そのような学習相談は様々な学習相談のうちの1つということができます。

B男：よくわかりました。

学習プログラム　学級や講座などの，学習内容や方法，指導者，場所，日程などを表わした計画表。

パンフレット［pamphlet］　宣伝や紹介のために作られた小冊子。

2 「計画的・継続的あるいは集中的に学習する段階」での援助

①学習機会の提供

この段階に入ると，先にも述べたように実際に学習活動が行われるようになる。その学習活動の中には，図書や放送番組を利用したり，学級・講座や社会通信教育を受講したり，習い事に通ったりする学習がある。

これらの学習活動が行われるということは，教育委員会などの公的機関や公民館・図書館などの施設や，民間の教育機関が学習機会を提供しているからである。公的なサービスであるか，民間の教育事業であるかは別にしても，学習機会の提供は1つの教育的援助の形態である。学習機会を提供するという形態の教育的援助は，従来から活発に行われてきた。

しかし，学習機会を提供すればよいというのではなく，このような「学習機会の提供」においても，やはり，「個人性の原理」の最大限の実現が求められるのであり，従来ありがちだった「常に大衆の一部としてしか相手をとらえない」という意識では，学習要求に対応することはできない。

Check II-4の答：2

具体的に言えば，次のような「きめ細かさ」が必要である。個人のひら

めきや気づきに注意し，それを励ます。学習の進度に遅れそうな人が追いつけるよう，プログラムを工夫する。そのうえで，「学習機会の提供」だけでなく，各人の個別の学習阻害要因の解消などの援助ができるよう，情報提供や相談を並行して行うことも大切である。つまり援助方法の「複線化」が必要なのである。

②適切な学習情報の提供

学習者の「個人性」を尊重するならば，一人ひとりの学習レディネスや志向性，持ち味などの「個性」に対応した学習情報が提供される必要がある。このため，日頃から各種の学習情報を収集・蓄積しておき，多様な方法でその学習情報を提供していくことが求められる。

③学習相談，レファレンス・サービス体制の整備

実際に学習活動が行われている第2段階目でも学習相談やレファレンス・サービスは重要な援助方法である。レファレンス・サービスというのは，図書館で行われている一種の相談サービスのことである。図書や資料を探すことができない人や，求めている情報がどこに収録されているのかわからない人にアドバイスしたりするサービスである。

学習していると，内容が理解できなくなり困ったという経験はだれにでもあるし，もう少し学習を深めたい，学習内容について掘り下げて調べてみたいと思ってもどうしてよいかわからない，さらに，適切な学習場所や指導者がわからないという人やグループ，サークルも多い。

このような学習途上で生じる困難をそのまま未解決のままにしておくと，しだいに学習への意欲を失い，学習を途中でやめてしまうことになりかねない。このため，このような学習の困難や問題に対して，適切な指導・助言を行える体制をつくることが必要なのである。この場合も，学習者の抱える困難や問題は様々なのであるから，「個人性の原理」に基づき，一人ひとりに柔軟に対応できるきめ細かなサービス体制が求められる。

④その他の援助

このほか，教育関係施設をつくったり，施設の設備や資料を充実させたりする援助や，団体，サークル活動の奨励・援助が行われている。ただし，学習ボランティアが直接これらの援助活動を行うのではない。学習ボランティアとしては，教育関係の機関や施設を通して，資料の収集・整理や団体・サークル活動へのアドバイスなどに協力するという場合が多い。

学習阻害要因 学習を行ううえで妨げとなるもの。

複線化 学習援助の「複線化」とは，一人の学習者が複数の援助を受けることができるということばかりでなく，学習者の自由な意志によって，学習者の好むものを選択して受けることができるということを意味する。

志向性 精神や意志が一定の目的や目標に向けられる傾向のこと。

レファレンス・サービス [reference service] 図書館などでの参考資料や情報の提供業務のこと。

Check II-5

次の文の中から正しいものを選び，番号で答えなさい。

1　実際に学習活動を行っている人に対しても，必要があれば学習情報を提供したり，学習相談に応じたりするなどの援助活動を行う必要がある。
2　実際に学習活動を行っている人には，学習相談は必要であるが，学習情報を提供する必要はない。
3　実際に学習活動を行っている人には，もはや学習情報を提供したり学習相談に応じたりする必要はない。

A子：実際に学習活動を始めた人や学習している人に対する援助の第一は，学習機会の提供ということなのですね。それも「個人性の原理」を尊重しなければいけないということですね。

B男：ただし，学習機会を提供すること自体は学習ボランティアの仕事ではありませんよ。

A子：学習ボランティアは，生涯学習にはどのような形態の学習機会があるのかを具体的に知っておく必要があるのではないでしょうか。

F講師：生涯学習の方法・形態につきましては，後ほど簡単に触れ，詳しくはステージ2以下で取りあげます。

A子：学習情報の提供については，第1段階目の「潜在的学習者への段階」での援助でも取りあげましたわね。学習している第2段階目でも，学習情報の提供が大切ということですのね。

B男：この段階で求められる学習情報は内容面で分類してもたくさんの種類がありますよ。教材についての情報，施設の情報，講師・助言者などの情報，学習機会の情報，学習場所の情報，学習プログラムのつくり方の情報，グループ活動や行事などの運営情報……あげきれませんな。これらについて，その地域の実態をとらえておく必要がある，というわけですな。

A子：これからの学習ボランティアはまず情報に敏感でなければならな

いということなのでしょうね。しかも，現代社会のように変化の速い社会では，情報はすぐ古くなりますから，いつも新しい情報を集めていなければなりませんね。

F講師：おっしゃるとおり，個々の学習者を尊重し，きめ細かな援助活動を行うためには，学習ボランティアは情報に敏感でなければならないでしょう。しかし，個人が収集・蓄積できる情報量は限られていますから，地域のデータバンクやデータベースなどから適切な情報を引き出せる能力をもつことがむしろ大切になってきます。

A子：私の住んでいる地域にデータバンクなどあるのかしら……？

F講師：まだつくられていない地域は多いでしょうね。データバンクの必要性が言われるようになって，それほど時間がたっていませんから。その場合には，学習ボランティアの方々が協力して，まず手づくりのデータバンクをつくられてはいかがでしょうか。コンピューターなどを使わなくても，当面はカードなどを用いて，できるところから情報を集め整理していくのです。

B男：学習ボランティアとして，大事な仕事だと思いますし，面白そうですなあ。今回の学習ボランティアの学習が一段落しましたら，仲間と考えてみることにしますよ。

A子：そのときはわたしも参加させてください。

B男：大歓迎ですよ。

A子：また，そのような活動をしながら同時に学習情報の提供の仕方ということも考えてみたいと思いますわ。

B男：そういたしましょう。楽しみですな。

F講師：Aさん，Bさんのように，学習をしながら次の学習課題や活動の課題が見えてくるというのはとてもよい学習です。一つ学習すれば，それ以上に学習課題が生まれてくるものです。発展的な学習といえますね。

A子：それにしましても生涯学習の時代ですから，様々な人が様々な学習をしているだけあって，学習者の悩みや問題も多様化しているのですね。

B男：その一つひとつに応じた相談サービスが必要だということですなあ。そのためには，やはり学習情報を集めて整理しておかねばな

りませんな。

A子：学習相談やレファレンス・サービスは今後ますます重要になるのでしょうが，とても難しい仕事のように思えます。

B男：そう，何を求めているのか，何に困っているのかさえ漠然としている人も多いですよ。そのような人にも適切にアドバイスしなきゃならんですし，かといって法律相談とは違いますから，プライバシーに深入りしてもいけないですし……。ですから，学習ボランティアはまず学習情報を提供するところから学習相談に応じていけばよいような気がしますよ。

A子：あとは，学習者と共に考えるということが大事，ということかしら。

3 「既得の知識・技術を補強する段階」での援助

進行中の学習をさらに深め，発展させていくこの段階でも，様々な学習援助を行う必要がある。この段階の学習者は，すでに学習の進め方や学習情報の探し方などをある程度体得していると考えられる。また，学習の内容も高度で専門的なレベルの場合が多いであろう。この段階での援助方法も第2段階と同様に学習機会の提供，学習情報の提供，学習相談などであるが，援助活動にはそれなりの専門的知識・技術を要することになる。その際には，学習者の課題に直接答えるというよりも，専門的な教育・学習関係施設や専門家などを紹介するなど，学習ボランティアには，学習者と施設や専門家を結ぶ役割を果たすことが求められる。

Check II-6

次の2つの文のうち，正しいものを選び，番号で答えなさい。

1　学習相談を受けたとき，学習ボランティアはその場で学習者の課題をすべて解決しなければならない。

2　学習相談を受けたとき，学習ボランティアは地域の学習情報・施設・専門家と学習者を結ぶ役割を果たせばよい。

Check II-5の答：1

A子：第3段階目の学習者に対しては，アマチュアであってもかなり専門的な学習をしているので，学習ボランティアは専門的な施設や指導者と学習者とを結びつける役割を果たせばよいということですね。

F講師：そうです。もちろん，第2段階の学習を始めたばかりの人に対する学習援助にしても，学習ボランティアは地域の学習情報・施設・指導者と学習者をつなぐ役割を果たします。それが，第3段階目の学習者になりますとさらに顕著になると考えればよいと思います。

3 生涯学習の方法

F講師：学習ボランティアは，生涯学習を援助するために，生涯学習にはどのような方法があるかを理解しておく必要があります。詳しくは，ステージ2以降で学びますが，ここでは生涯学習の方法を分類してみます。

生涯学習の方法の類型

生涯学習の方法は大きく分けると，表II-1に示したように，3つに分かれる。集合学習と個人学習と個人教授である。

①集合学習であるが，この学習方法は学習者が集まって学習する方法である。この集合学習は，さらに2つに分類できる。1つは集団学習であり，もう1つは集会学習である。集団学習というのは，参加者が学習集団に組織されて相互に協力し合いながら学習活動を行う方法である。このため，参加者が集団を形成すること自体に教育的意義がある。それに対して，集会学習とは，希望者がその都度自由に参加して学習する方法である。したがって，多くの場合，参加者どうしは互いの顔も知らずに学習が進行していく。

②個人学習とは，学習者が一人で直接，先生にもつかずに学習する方法である。個人学習はさらに，ⓐ図書，新聞，雑誌，放送，カセットテープなどの学習媒体を利用して行う学習，ⓑ社会通信教育を利用して行う学習，ⓒ図書館や博物館などの施設を利用して行う学習，の3つに分けることができる。

③個人教授というのは，学習者が先生とマン・ツー・マンの関係で指導を受ける方法である。学習者は一人であっても，直接，先生から教えてもらうので個人学習とは異なる。このような個人教授の方法は，わが国では古

学習媒体　学ぶべき知識・技術などを伝達する際に仲だちをするもののこと。

マン・ツー・マン[man-to-man]　1対1で，直接コミュニケーションが行える関係にあること。

表II-1　生涯学習の方法の類型

集合学習	集団学習…学級・講座・教室，グループ，サークル活動など
	集会学習…講演会，演奏会など
個人学習	学習媒体を利用して一人で行う学習…図書，雑誌，放送などを利用
	社会通信教育
	施設利用の学習…図書館，博物館などを利用
個人教授……けいこ事など	

Check II-6の答：2

くからけいこ事あるいはならい事として行われてきた。

生涯学習の方法は，主として以上のような集合学習，個人学習，個人教授の3つに分類できるが，実際に行われている学習活動をみると，一人の学習者がそれらを組み合せて学習している場合が多い。たとえば，学級・講座に参加しながら，一人で図書や放送を利用して学習内容を深めたり，社会通信教育を利用しながらグループ活動に参加したり，個人教授で週に一回先生の指導を受け，そのほかの日には一人でカセットテープで学習したりしているのである。

学習者がどのような方法で学習したいと思っているか，あるいはどのような方法で学習しているかで，求められる学習情報が異なったり，相談の内容が異なったりするため，学習援助者はそれぞれの学習方法の特性を理解しておくことが望ましい。

Check II-7

次の文の（　）の中にあてはまる言葉を下記の解答群から選び，記号で答えなさい。

生涯学習の方法は大きく分けて，3つに分類できる。その1つは（①　）で，それには学級・講座，グループ・サークル活動での学習などの集団学習と講演会，演奏会などの（②　）とがある。2つ目は（③　）で，それには図書や放送などを一人で利用した学習，社会通信教育を利用した学習，図書館，博物館などの施設を利用した学習などが含まれる。3つ目は（④　）で，これは1対1の関係で先生から直接指導を受ける学習方法である。

a. 個人学習　　b. 集会学習
c. 集合学習　　d. 学習援助
e. 個人教授

Check II-7の答：①c，②b，③a，④e

Stage 1　復習問題

1 ステージ1（8ページ）の対話の初めのところで出されたBさんの「生涯学習の原理」に対する疑問の答えとして適切なものを下記の1～3から選び，番号で答えなさい。

Bさんの疑問：ぼくなんかは，好き勝手に学習を楽しんでいただけなんですが，「原理」だなんて言われると，ちょっとね。（“学習者は自由に学習しているのだから「原理」などといって原則を押しつけてよいのか”とBさんは考えている。）

1　ここで取りあげた生涯学習の原理とは，学習ボランティアなどの援助者が学習援助を行う際に認識しておくべき基本としての原理なのである。したがって，学習者に原理を押しつけるものではない。

2　ここで取りあげた生涯学習の原理とは，学習者が守らねばならない生涯学習の原理である。学習者は自由気ままに学習すればよいというわけではない。

3　ここで取りあげた生涯学習の原理とは，人間は生涯にわたって学習すべきだという人間の生き方の原理である。したがってだれもがそれを認識しておかねばならない。

2 学習ボランティアができる学習援助活動として正しいものを選び，記号で答えなさい。

a．生涯学習関係施設をつくる　　b．学習相談に応じる
c．地域の教育予算を決定する　　d．学習情報の収集・整理をする
e．学習情報を提供する